

「希望 (のぞみ)」の学習を通して、様々な人々とともに、積極的に、粘り強く課題解決に取り組む中で、社会において有為な人となるべく自己の向上をはかる子どもの育成を目指します！

運営指導委員会の指導を受けて

本学校園では、研究開発の方向性について外部の先生方の専門的な見地からご指導いただくため、運営指導委員会を年間 3 回 (研究会を含む) 開催しています。

< 運営指導委員の先生方 >

- 小原 友行 先生 (広島大学大学院教育学研究科教授)
- 天笠 茂 先生 (千葉大学教育学部教授)
- 無藤 隆 先生 (白梅学園大学子ども学部教授)
- 深澤 清治 先生 (広島大学大学院教育学研究科教授)
- 朝倉 淳 先生 (広島大学大学院教育学研究科教授)
- 北川 千幸 先生 (広島県教育委員会教育部義務教育指導課課長)
- 岩田 嘉憲 先生 (広島県東部教育事務所教育指導課課長)
- 瓜生 八百実 先生 (三原市教育委員会教育長)



本年度の第 1 回の会を 6 月 26 日 (金) に開催し、6 名の運営指導委員の先生方に、研究の進捗状況を報告した後、授業を見ていただき、ご指導・ご助言をいただきました。

運営指導委員の先生方からは、「これまでの 3 年間の成果を、4 年目・5 年目に向けて発展させることができている。」「関心・意欲・態度を育てるための指導法の開発が求められている。」「断片的な知識をつないでネットワーク化していくことが大切だ。」「子どもたち自身が、主体的にどう変わったかを知るための自己評価力を付けることができるようにすることが大切だ」などのご指導をいただきました。今後も、社会的自立の基礎となる能力や価値観を学校教育活動全体を通して育てていくため、「希望 (のぞみ)」及び保育・教科の中で、幼小中の教職員が一体となって取り組んでいきたいと思いをします。

「希望 (のぞみ)」では、次のような能力や価値観の育成を目指しています！

※「・・・」は 9 年時に目指す姿です。子どもたちは、毎時間の振り返りの中で、このようなめざす力が付いたのかどうかを自己評価や相互評価をしながら学習を進めています。

○ キャリアプランニング能力 (なりたい自分になる力)

「役割や仕事に責任をもって取り組んだり、意欲をもって学んだりしながら、自分と社会とのつながりについて考え、自分の将来や生き方を描くことができる。」

○ 人間関係形成・社会形成能力 (関係を構築する力)

「相手の立場や気持ちを尊重しながら考えを分かりやすく伝え合ったり、相手の考えから自分自身を客観的に見つめたりするとともに、全体の状況を見通しながら、集団のさまざまな意見に折り合いをつけ、全体の意見としてまとめていくことができる。」

○ 課題対応能力 (達成へ向かう力)

「地域社会とのかかわりの中で、新たに挑戦してみたいことを見つけて、見通しをもって計画立案を繰り返し、自ら目標を決め、最後まで行動することができる。」



○ 自律

「『なりたい自分』に向かって目標をもち、最後までやりきる大切さに気づく。」

○ 共生

「様々な人とかかわる中で、相手の気持ちを尊重しながら伝え合うことの楽しさや大切さに気づく。」

○ 参画

「よりよい集団や社会をめざし、自らすすんで問題を見つけ、その解決に向けて具体的に計画・立案・実行することの大切さに気づく。」



2つの部会から研究保育・授業を提案

今年度から、「希望（のぞみ）」の時間だけでなく、全教科の学習を通して、前記の能力や価値観を育成していこうと考え、「希望（のぞみ）」に加え、教科の研究授業も参観していただきました。

「希望（のぞみ）」幼小接続期部会

（2年・年長の交流）『みんなでいっしょに』



何色の色紙を入れると、きれいになるかな…。もっとしっかり混ぜたほうがいい？



本物のジュースみたいな色水ができたよ！



2年生と年長児での交流活動を通して、お互いの思いを聞き合いながら、遊びが楽しくなる工夫を試行錯誤して、かかわる姿を目指しました。2年生の提案した色水遊びに、夢中になる年長さんと、もっときれいな色になるように言葉がけする2年生のほほえましくも互いに学びのある交流活動が見られました。

保育・教科部会（国語科・9年）『詩を作ろう』



班のみんなはどんな詩を作ったのかな？

言葉を工夫して選び、運動会の感動が伝わるような詩を作ることを目標として学習をしました。その中で、班での交流を通してよりよい表現にしていくことを目指しました。それぞれの詩の良さを読み味わいながら、これまでの学習で学んだ技法などを取り入れてさらに磨き上げようとする姿が見られました。

「研究開発だより」（カラー版）をHPに掲載していますので、併せてご覧ください。

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/fmihara/kenkyu/>